

中国語の下降移動動詞群「下 xia」「降 jiang」 「落 luo」「掉 diao」について

孫 国 震

1. はじめに

移動動詞は、上下と平行の移動方向により、上昇移動動詞・下降移動動詞・水平移動動詞などに分けることができる。数こそ異なれ、それぞれ近似的な意味をもつ動詞が複数あるため、また上昇移動動詞群・下降移動動詞群・水平移動動詞群などと設定できる^{注1}。ここでは、中日両語の下降移動動詞群に関して考察したいが、枚数が限られているので、その一環として、中国語の下降移動動詞群に絞りたいと思う。中国語の下降移動動詞群には、「下xia」・「降jiang」・「落luo」・「掉diao」が上げられる。この四動詞は、上から下へ移動するということであるが、すべてお互いに取り替えて使用できるというわけではない。それで、この四動詞は、いったいどういうふうに使分けされているのか、またどんな補完的な関係をなしているのかについて、考察したいと思う。

2. 辞書の記述

「下xia」・「降jiang」・「落luo」・「掉diao」については、『現代漢語詞典』と『動詞用法詞典』にはそれぞれ記述があるが、次のようにまとめておく。

「下」

- | | |
|-----------------------------|--|
| (a) 由高处到低处[高いところから低いところへ到る] | (g) 卸除、取下[取り除く・取り外す] |
| (b) “雨、雪”等降落
[雨・雪などが降る] | (h) 做出言论判断等[言語判断などを下す] |
| (c) 颁发、投递[配る・配達する] | (i) 使用、开始使用
[使用する・使用し始める] |
| (d) 进入(处所)[(場所)に入る] | (j) “动物”生产[動物が出産する] |
| (e) 退场[退場する] | (k) 攻陷 [攻め落とす] |
| (f) 放入[中に入れる] | (l) 到规定时间结束日常工作或学习等[定めた時間通りに仕事か勉強などを終える] |

「降」

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| (a) 落下(跟“升”相对)
[下がる(「上がる」と正反対する)] | (b) 使落下 [下げる] |
|--------------------------------------|---------------|

「落」

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| (a) 物品因失去支持而下来
[ものが支えを失って落下する] | (c) 遗留在后面[後に取り残される] |
| (b) 下降, 使下降
[下降する・下降させる] | (d) 停留, 留下[泊まる・残る] |
| | (e) 得到[得る] |
| | (f) 归属[帰属する] |

「掉」

(a) 落(a) [落下する]

(c) 遗失, 遗落 [遺失・遺漏]

(b) 落在后面 [後に取り残される]

(d) 减少, 降低 [減少・降低]

以上の記述を見れば分かるように、基本的な意味である「下降移動」については、区別がつかないほど近似的に且つ代替的に記述されている。ここでは、上記の辞書の記述を参考に、実例を用いて構文特徴と意味要素から分析して、この四動詞の意味特徴を記述したいと思う。

3. 構文

「下xia」・「降jiang」・「落luo」・「掉diao」は、構文的には、「主語+述語」と「主語+述語+目的語」と二種類ある。ここでは、主に後者の「主語+述語+目的語」だけを取り扱う。「主語+述語+目的語」という構文は、馬慶株氏の名詞目的語の分類法(1992)に従えば、目的語の意味により、下位目的語としてまた幾種類かに分類できる。それは、主体目的語(動作の施事・性質変化の主体)・場所目的語(移動の起点・終点と所在)・時間目的語(動作の時間)・客体目的語(動作の対象となる事物で、受事客語とも呼ばれる)などである。^{注2}

(1) 下雪 [雪が降る]

(2) ×雪下^{注3}

「雪」は、動作主体の役割を果たすが、そのまま「下」に前接することはできない。目的語の位置にありながら、主体の役割を果たす。その特徴から、下位分類として「主語+主体目的語」を抽出することができる。(1)は、自然現象だから、主語の位置に何も置かれていないが、普通、主語の位置には、「時間・場所・或いは目的語の所有者」が使われている。例えば「树掉(落)叶 [木から葉が落ちる]」「他掉(落)泪 [彼は、涙を落とす]」「衣服掉(落)色 [服は、色が落ちる]」等である。

(3) 降温 [温度が下がる]

大気の温度ならば、「这几天有台风, 降温了 [この二、三日台風があって、温度が下がった]」のように「 ϕ +述語+主体目的語」となるが、部屋の温度だとすれば、「房间里太热了, 开空调降降温 [部屋のなかは、暑すぎるから、クーラーをつけて温度を下げよう]」のように、「主語+述語+客体目的語」とも考えられる。「降压」も「降温」と同じように、「述語+主体目的語」と「述語+客体目的語」が二通り考えられる^{注4}。後者は、また「下命令 [命令を下す]」「落帆 [帆を下ろす]」などがあげられ、その客体目的語は、いずれも主体により制御される。そこで「述語+客体目的語」という下位構文も抽出できる。

(4) 他下飞机 [彼は、飛行機から降りる]

その目的語は、場所を示すので、下位分類として「述語+場所目的語」を立てることができる。

(5) 下课 [授業が終わる]

(6) 下班(工) [退勤する]

「課」と「班」・「工」は、いずれも授業を受けるか或いは仕事するという時間単位である。それは、また「述語+時間目的語」を下位構文として立てることもできる。

従って、四動詞に関する辞書の各項目の記述は、その四構文に集約することができる。

A類 「述語+主体目的語」：「下」(b) / 「降」(a) / 「落」(a)(b)の一部 / 「掉」(a)

B類 「述語+場所目的語」：「下」(a)(d)(e) / 「降」(a) / 「落」(b)の一部(f)
/ 「掉」(b)

C類 「述語+時間目的語」：「下」(l)

D類 「述語+客体目的語」：「下」(c)(f)(g)(h)(i)(j)(k) /
「降」(b) / 「落」(c)(d)(e)(f) / 「掉」(c)(d)

以下、その四構文に従って考察する。

4. 分析

4. 1. 「述語+主体目的語」

4. 1. 1. 「下」と「降」

(7) 下雪 [雪が降る]

主体目的語に使用される語としては、また「雨」・「霜」・「雹」という自然現象があり、主体が高い空から低い地面へ下降する現象を表す。

(8) ×下雨点儿 [雨粒がばらばら落ちる]

(7)(8)の例を見れば分かるように、「下」は、「雨粒」という個別的なものというよりは、「雨」全体を指すのである。

(9) 西郊降(下)了一场雪(雨、霜、冰雹) [西の郊外で雪(雨・霜・雹)が降っていた]

(10) 降水 [降水]

(9)は、(7)の「下」と同じ意味として使われている。ただし、口頭語よりも文章語としてよく使われる。(10)は、「大気から地面に落ちてきた固体か液体の水を指す」という気象専門用語として使われる。いずれも主体が上空から下へ移動することを示す。

4. 1. 2. 「落」と「掉」

(11) 落花(叶、灰、泪) [花(葉・灰・涙)が落ちる]

主体目的語には、「葉」・「花」・「灰」・「涙」のようなものが使われている。その主体は、どこかの支えを失ってから、離れ、さらに重力のまま下降する。つまり、離脱につながる下降である。(11)は、そのまま「掉」に取り替えられる。しかし、それだけでは、「掉」と「落」の区別は、つかめない。

(12) 掉牙(头发、色、字、体重、膘)

[齒(髪の毛・色・字・体重・白身の肉)が落ちる]

(12)は、ただ離脱するだけの意味であり、「掉蹠」を除けば「落」と簡単には置き換えられない。その点も含めて考えれば、「落」は、離脱の意味ももつが、ほとんどといっていいほど軽い主体に限定されている。

(13) 落发[髪の毛を落として和尚になる]

(14) 落蹠[動物が痩せる]

「发[髪の毛]」・「蹠[肉]」は、固定位置から離れることで、離脱だけを示すが、例の数はかなり少ない。(13)(14)のように意味的には「和尚」・「動物」に限定されていて、一般化することはできない。それで、「離脱」という要素は、以前「落」にはあったが、段々後退して、現在はあまり多く残っていないと考えられる。

(15) 掉钱包[財布をなくす]

それは、広義的に解釈すれば、紛失することであり、一種の離脱である。しかし、「落」には取り替えられない。

(16) 落价[値段が安くなる]

(17) 落音[話しの声が消える]

(18) 落潮[潮が引ける]

それは、離脱のニューアンスが後退し、ある点から下降する状態が浮き彫りにされている。(16)は、高い価格から低い価格への連続的な要素を指し、「掉」に取り替えられると、元の値段との差が大きいため、ある度合いからどかんと離れて落下するということになる。(17)は、話の音が低くなり、聞こえなくなる連続的な下降を示し、(18)は、海辺からそれより低い海のほうへと水位が下がるが、急な下降ではなく、緩やかで連続的な下降状態である。それには、「掉」が適応しないのである。

以上の例を見れば、次のようなことが言える。「掉」は、基本的に離脱に焦点を合わせ、「落」は、基本的に離脱後の緩やかな下降に焦点を合わせている。

(19) 掉雨点儿[雨粒がぱちぱち落ちる]

雨全体が降るといよりも、雨の水滴が個別的に下降することである。それで、「下」とは置き換えられない。

それで、「述語+主体目的語」においては、「下」・「降」は、ともに空からの自然現象の下降を表す。「掉」は、離脱が中心で、下降につながる主体であれば、重力のまま下降することも考えられる。「落」は、離脱後の下降が主で、緩やかで連続的な下降である。この四動詞は、いずれも非意志的である。

4. 2. 「述語+場所目的語」

4. 2. 1. 「下」と「降」

(20) 下飞机(船、车、自行车)[飛行機(船・車・自転車)を降りる]

場所目的語として、交通機関が使われている。地面より高い交通機関から地面へ移動す

る下降起点を表し、その起点から離れることを表す。

(21) 下台・下场〔舞台から降りる／退場する〕

「下台」は、舞台から離れ、「下场」は、球場を離れることを指す。「場」・「舞台」は、いまはほぼ地面と同じぐらいの高さになっているが、以前は、いずれも小高いところであったようだ。それで、やはり主体のいる高い場所を起点として下降するという発想から来ているのである。

それは、地面より高いところにある主体の位置を起点として、下へ移動する例である。

(22) 下山(坡、楼梯)〔山(坂・階段)を降りる〕

「山・坂・階段」は、「下」にとっては、起点であると同時に移動経路でもある。「下长江〔長江に入る〕」「下黄河〔黄河に入る〕」は、経過通過というよりも、あくまでも下降移動の目標地である。しかし「顺江而下〔川を下る〕」「在长江顺流而下〔長江を下る〕」のように構文を変えれば、移動経路の通過が表現できる。それで、構文の力に頼らず、「下」自身の力では、長い経路の通過を表現できないことがわかる。

(23) 下海〔海に入る〕

(24) 下地(田)〔畑に行く〕

(25) 下厨房〔台所へ降りて働く〕

(26) 下基层(连队)〔末端組織(中隊)に行く〕

(27) 下乡〔田舎に行く〕

同じ場所目的語ではあるが、(23)～(27)は、到着点を表す。(23)(24)は、高い所在位置から低い「海」・「田」へ向かうことを表す。(25)は、現在は上下の差はないが、以前はやはり居所と台所の間に段差があったと考えられる。(26)は、組織関係における上位組織に所属する人間は、下位組織へ移動することである。(27)は、都市という中心地からその周りの農村へ行くという派生的用法である。それは、主従関係による心理的な上下関係である。

以上の分析からも分かるように、主体がいる高い場所を目的語とする場合は、下降移動を始める起点となり、主体がいる場所より低い場所を目的語とする場合は、向かう目標地となる。いずれも下位方向へ移動することである。なお(20)～(27)は、すべて主体の意志による動きである。

(28) 降凡〔人間の世界に降りる〕

神様が人間世界へ下降することを言う。「下凡」も適格である。また、「从天而降(下)」にも「下」と「降」が同じように用いられる。「降(下)雨」も考慮に入れば「空から下降する」という意味においては、「降」も「下」も同じ意味要素をもっていると言える。

4.2.2. 「掉」と「落」

(29) 掉队〔落伍する〕

例は、一つだけであるが、主体が所属する集団を場所目的語とし、「隊」について行けなくて離れてしまうことを表す。上位から下方へ移動するよりも、中心から離れてしまうことを表す。

(30) 掉屋顶(井里、地上) [屋根(井戸・地面)に落ちる]

主体がいる位置より低い位置を目的語とする場合は、帰着点を表し、意志的に下降する「下」と違って、「掉」は、非意志的な落下である。

(31) 花瓶重重地掉地上, 碎了。 [花瓶がどかんと地面に落ちて壊れた]

(32) 他轻轻地落屋顶上, 没人察觉。 [彼はスーと屋根に降りて、誰も気がつかなかった]

(33) 飞机掉机场上, 爆炸了。 [飛行機が落ちて爆発した]

(34) 飞机落机场上, 稳稳地停住了。 [飛行機が空港に降りて、ゆっくり止まった。]

離脱後、下降につながる場合は、重力のまま行く着く所まで行くが、「掉」の主体が重いほどに、地面につく衝撃も大きいので、破損することも免れない。「落」は、主体の重さに関わらず、緩やかに下降し、帰着点につくことである。それで「掉」と「落」の差は、一目瞭然である。

(35) 落伍 [落伍する/時代が遅れる] → 掉队

(36) 落榜(第) [落第する] → ×掉榜

この二例は、主体の所在する位置から離れることを表す。中で、そのまま「掉」と置き換えられるのは、(35)だけである。しかし、古典的な「伍」を現代語の「隊」に変える必要がある。(36)は、科挙時代に生まれた古い用法である。ここでも、「落」は、以前主に離脱として使われていたと伺える。

(37) 落槽 [水の嵩が下降する/家が没落する] → ×掉槽 掉槽下 [槽の下に落ちる]

それは、離脱だけじゃなくて、下降にもつながるのである。場所目的語を二文字にすれば、「掉」には置き換えられる。しかし、主体は、水や家に限定されず、かなり広い範囲内で選択できる。そして、連続的な下降が感じられなくなり、離脱後の急な下降となる。

(38) 落山 [太陽が落ちる] → ×掉山 掉山里 [山に落ちる]

(39) 落座 [公のところで座ること] → ×掉座 掉座位上 [席に落ちる]

(40) 落账 [帳簿につける] → ×掉账 掉帐本上 [帳簿に落ちる]

それは、主体の所在する位置より下方にある場所を目的語とする場合は、緩やかに帰着点につく。そのまま「掉」と置き換えられないが、目的語を二文字以上にすれば、「掉」に置き換えられるようになる。しかし「掉」と比べてみれば、「落」は、主体が限定され、意味範囲がかなり狭い。

(41) 落水 [墮落する] → ×掉水 掉水里 [水に落ちる]

(42) 落地 [赤ん坊が生まれる] → ×掉地 掉地上 [地面に落ちる]

(43) 落草 [強盗になってしまう] → ×掉草 掉草地上 [芝生に落ちる]

(44) 落网 [逮捕されてしまう] → ×掉网 掉网上 [網の中に落ちる]

(45) 落荒[荒野へ向かって逃げる] →×掉荒 掉荒野上[荒野に落ちる]

その場合、緩やかな下降が後退し、行き着く下位の帰着点についてしまうことである。場所目的語の意味は特定されている。

要するに、(38)～(45)は、意味範囲が特定されていて例もかなり限定された存在であり、主に緩やかな下降と離脱後の落下を表す。緩やかな下降要素は、現在も生かされているが、離脱後の急な落下は、「掉」が「落」に代わってその役割を果たすようになった。

「落」は、次のように二文字以上の目的語をもっているものもある。

(46) 落他身上[彼がやることになる]

(47) 落他手里[彼の手に落ちる]

(48) 落上海[上海に籍を置くことになる]

それは、主体が帰着点に落ちつくということである。下降移動要素は、すっかり後退したとはいえませんが、最終の帰着点だけが、大いに浮き彫りにされている。(46)～(48)は、(38)～(45)と違って、かなり口語的である。それで、「落」は意味特徴としては、離脱や重力のままの下降から、緩やかな下降、柔軟な帰着へと移っていると観察できる。いずれも非意志的な表現である。

4.3. 「述語+時間目的語」

「下」

(49) 下班[退勤する]

(50) 下课[授業が終わる]

定められた一定の時間単位が終わりになると、そこから身を引く。だから、主体が位置する「課」・「班」・「工」という時間単位の状態から離れることであり、その起点を表す。いずれも意志的な表現である。

4.4. 「述語+客体目的語」

ここで扱ってきた「述語+(主体・場所・時間)目的語」は、主に主体の動きを表し、これからは、主体の意志による客体の動きを考察する。

4.4.1. 「下」

(51) 下命令(調令、指示、通知/請帖、聘礼、定礼)

[命令(転勤命令・指示・通知)を下す/(招待状・婚約礼金を出す)]

それは、上位の主体主語が客体目的語を下位の誰かに出すことである。「通知」は、組織の上層部から出す場合は、「下通知」は使えるが、逆とか対等の関係の場合は、「下通知」は使えない。「发通知」は使える。

(52) 下面条(饺子、药、本钱、工夫、保、赌)

[ラーメン(餃子・薬・元金・力・保証金・掛け金)を入れる]

低い位置にある入れ物或いは事柄に客体を高い位置から下ろすか投入する。(52)と(53)は、いずれにしても下位の対象物にものに向わせることを示す。

(53) 下种子/下罟(夹子)/下棋/下笔(手)

[種を撒く/罟(鉄)を下ろす/碁をさす/筆(手)を下す]

それは、あるものの中に入れるというよりは、平らなものの上に下ろすことである。

(54) 下结论(判断、定义、注释) [結論(判断)を下す/定義(注釈)をつける]

ある事柄に対して、最終的な意見や考え方を示す。つまり、主体自身の意見や考えをある事柄に取り入れることである。主体から離れた対象物に主体側の客体を下降させるということである。

(55) 下枪(玻璃、铁门、窗户) [銃(ガラス・鉄の門・窓)を下ろす]

それは、(51)～(54)と違って、相手の手にもっている銃を下ろすことであり、そのほかは、「ガラス・窓・ドア」という客体の所在位置からそれをはずすことである。つまり、対象側にある客体を主体側のほうへ下降移動させることである。

(56) 下三个碉堡 [三つのトーチカを下す]

(55)と同類の用法であるが、目的語は複数が条件である。対象所有のトーチカを主体側のほうへ下降移動させることである。

(57) 下蛋(崽) [卵(子)を生んだ]

動物の出産を、人間の視点からとらえているので、非意志的な表現である。

以上の用例をまとめてみると、主体側に位置する客体目的語を、下位対象側へ向かわせる場合は、帰着点に焦点を合わせるのに対して、主体は、対象側にある客体目的語を離れさせる場合は、離脱させることになる。いずれも高いところから低いところへと下降移動させることである。(57)を除いて、すべて主体の意志によるものである。

4.4.2. 「降」

(58) 降价(级、格) [値段を下げる(級・格を下げる)]

「价」・「级」・「格」は、いずれも度合いを示す。ある高い度合いからある低い度合いまで移動するということである。一遍に急に下降するのではなく、下降経路における目盛りや度合いを伝わって段階的に下降するのである。

(59) 降旗 [旗を下ろす] ×下旗 [旗を下ろす]

(60) 降半旗 [半旗を掲げる] 下半旗 [半旗を掲げる]

(59)では、旗を竿に沿って徐々に(部分的に)下降するということである。下降目標に焦点を合わせている「下」は、非文となる。(60)では、結果を述べているので、半分の度合いまで下ろす「降」と下位の半分目標地へ下降させる「下」とが重なるのである。「降心相从 [自分の意志を曲げて服従する]」・「降志辱生 [志を下げて人格を辱める]」・「降贵纡尊 [高い地位を進んで下げる]」は、所在の位置から下のランクまで部分的に下降させることである。だから、「下」は、起点から下降移動するのか或いは帰着点へ下降移動する

かである。それに対して、「降」は、下降経路を段階的に下降するのだといえる。いずれも意志的な表現である。

4.4.3. 「落」

(61) 落筆 [書き始めるか描き始める]

筆を下のほうへ下ろすことである。「掉」と置き換えられないが、「下」と置き換えられる。それは、緩やかに帰着点に下降させる「落」は、下の目標へ向かわせる「下」と重なるからであろう。

(62) 落帆(窗帘) [帆(カーテン)を下ろす]

「帆」「窗帘」の一方の端が下方へ緩やかに連続的に移動する。宙に浮いている下がり方ではなく、最後まで下ろすことである。主体の意志的な用法である。

(63) 落户 [定住する]

(64) 落脚 [一時泊まり]

それは、帰着点に焦点を合わせ、意志的な用法である。

(65) 落了一身衣服 [上下の服を得た]

(66) 落疤 [傷跡が残る]

(67) 落残疾 [身体障害が起こる]

(68) 落了很多好处 [利点をたくさん得た]

(69) 落埋怨 [文句が言われる]

それは、帰着点に焦点をあわせ、結果的に何かを得たということである。つまり、下降の要素が見えなくなり、主体が否応無しに客体を得る、ということである。意志的な表現ではない。

5. まとめ

以上の分析により、「下」・「降」・「掉」・「落」の意味特徴は、次のようにまとめることができる。

下: 上位のものが下位の方へ下降する。

降: 下降経路を段階的に下降する。

掉: 固定位置から離脱し、重力のまま下降する。主体が重いほど衝撃による破損も大きい。

落: 質が軽い主体が離脱後、緩やかに下降する。連続的に下降する。帰着点へ軟着したり、帰着点に帰属したりする。

「下」と「降」は、空のものが下降する時は、同じように使われ、非意志的な表現である。「下」は、下位目標地へ向かうほかに、中心からその周りの地域へ向かう用法もあるが、「降」は、上から下への移動しか考えられなく、下降経路を伝わって段階的に下降するだけである。それで緩やかな要素が考えられ、飛行機の場合となると、「落」と同じように使える。「掉」は「落」に変わって離脱の要素を担うし、離脱後の急な下降の要素が

形成される。「落」は、離脱において「掉」と同じ要素があるが、軽い主体に限定されるので、「掉」と別れて緩やかな或いは連続的な下降となる。そして帰着点につく時点においても、まったく正反対の結果を招くことになる。

以上は、共時的に考察したものである。この四動詞の根本的な区別を極めるには、通時的な考察も避けられないのである。それら考察結果をもとにして日中両語の下降移動動詞群の対照研究に取りかかりたいと思う。それは、今度の考察課題にする。

注1：動詞群の設定は、中本正智先生（1981）によるものである。

注2：「客体目的語」のほかに、また「道具目的語」・「方式目的語」・「結果目的語」・「対象目的語」などなどがあるが、ここでは、一括して「客体目的語」とみる。

注3：×は、非文とする。

注4：二通りの説明ができるのは、目的語となる名詞に含まれる意味合い（気温と部屋の温度）の曖昧さに由来する。

／参考文献／

国立国語研究所1972 『動詞の意味・記述的研究』秀英出版

森田良行1979 『基礎日本語1』角川書店

柴田武他1979 『ことばの意味2』平凡社

中本正智1981 『日本語の原景 日本列島の言語学』金鶏社

孫国震1989 「中国語動詞「掉(diao)」「落(luo)」」

『日本語研究』第11号 東京都立大学国語学研究室

中国社会科学院語言研究所1979 『現代漢語詞典』商務印書館

孟 綜他編1987 『動詞用法辞典』上海辞書出版社

馬慶株1992 『漢語動詞和動詞性結構』北京語言学院出版社